

187.2



卷之三

辛

脩

甘

禮

癸卯年夏月

董其昌書

中興

維持四十年十月廿二日正午

香傳舍人題記

文如金之高祖子孫也

欲知祖孫子孫者以是為記

那今弘之嘗傳之於其子也

時平

憶事多忘其所以遺失也

人所傳之亦多矣

舊傳之者多矣

家

己亥年秋

王

王
忠
裕
公
集
卷
之
一

忠
裕

忠
裕
印

御 挨 拶

今年は六代目野澤吉彌五十年忌、五代野澤吉兵衛廿五年忌、六代野澤吉兵衛十三年忌、（昭和十一年に當るを取越して）に相當致しますので此機會に我々打集ひまして此方々の因縁の人々をも併せて今日の法要を相營む事に致しました。夫に就きましていさゝかながら供養の志と存じまして『野澤のながれ』と題し小冊子をもの致しました冊中『ふし名よせ』は三代野澤吉兵衛の自筆入章でございます。御高覽の上御参考の一端にも成りますならば私共の此上もなき悦びにござります。爰に法要執行に當りまして御挨拶を申上げ併せて御協力を賜りました皆様方へ謹みて御禮を申上ます。尙冊中總べて尊稱を省略致しました事を御断申上ます

頓 首

昭和十年十月四日

六代 野澤吉彌
五代 野澤吉兵衛

預門人二代 鶴澤寛治郎

六代 野澤吉兵衛 門人

八代 野澤吉彌

七代 野澤吉兵衛 拝

八代 野澤吉彌

一 門 中 拝

六代野澤吉彌略歴

(通稱淀屋橋)

安政元年、大阪淀屋橋南入ニ生ル。本名、三島福松。文久三年、四代野澤吉兵衛門人トナリ幼師鶴澤七兵衛ノ前名ヲ譲リ受ケテ鶴澤兵内ト呼ビ、同年三月始メテ道頓堀若太夫座ニ出座。三興行ノ後、野澤兵内ト改ム。(慶應四年)明治元年三月二日、稻荷社内東芝居ニテ野澤兵内改メ二代目野澤吉三郎トナル。明治十五年六月六日、松島文樂座ノ興行ヨリ五代鶴澤寛治ノ後ヲ受ケ、四代竹本重太夫相三絃トナリ引續キ出勤中、翌十六年四月十一日松島文樂座興行ニテ發病退座ス。翌十七年九月、吉三郎改メ六代目野澤吉彌ヲ襲名、引續キ休養セシガ藥石効ナク、明治十九年十二月四日逝去セラル。

法名 釋遊聲 行年三十三歳。

天王寺區六万体町 吉祥寺ニ葬ル。



(四六日同)

二日



岸稻道

操り皇

流技經冊
須豪制札

舟川坡ノ役

心野義貞

敷盛

生陣の所

陣門

降舟車

船太夫

宝引のくん

舟車寄太夫

鶴谷陣

其太夫

頃アの浦底

舟車

船太夫

宝引のくん

舟車寄太夫

舟車

船太夫

宝引のくん

舟車寄太夫

舟車

船太夫

宝引のくん

舟車寄太夫

舟車

船太夫

宝引のくん

舟車寄太夫

舟車

船太夫

鶴谷典進
是行退座

兵内事
代目
野澤吉三郎下
改名入

三味線

兵内事方家樂六八方

九代吉太夫（元代吉太夫後、安政五年正月八日傳時）
十六代吉太夫ト又在再び後、長徳太夫ト改め
慶應四年正月八日十四日、死去不此年九月八日

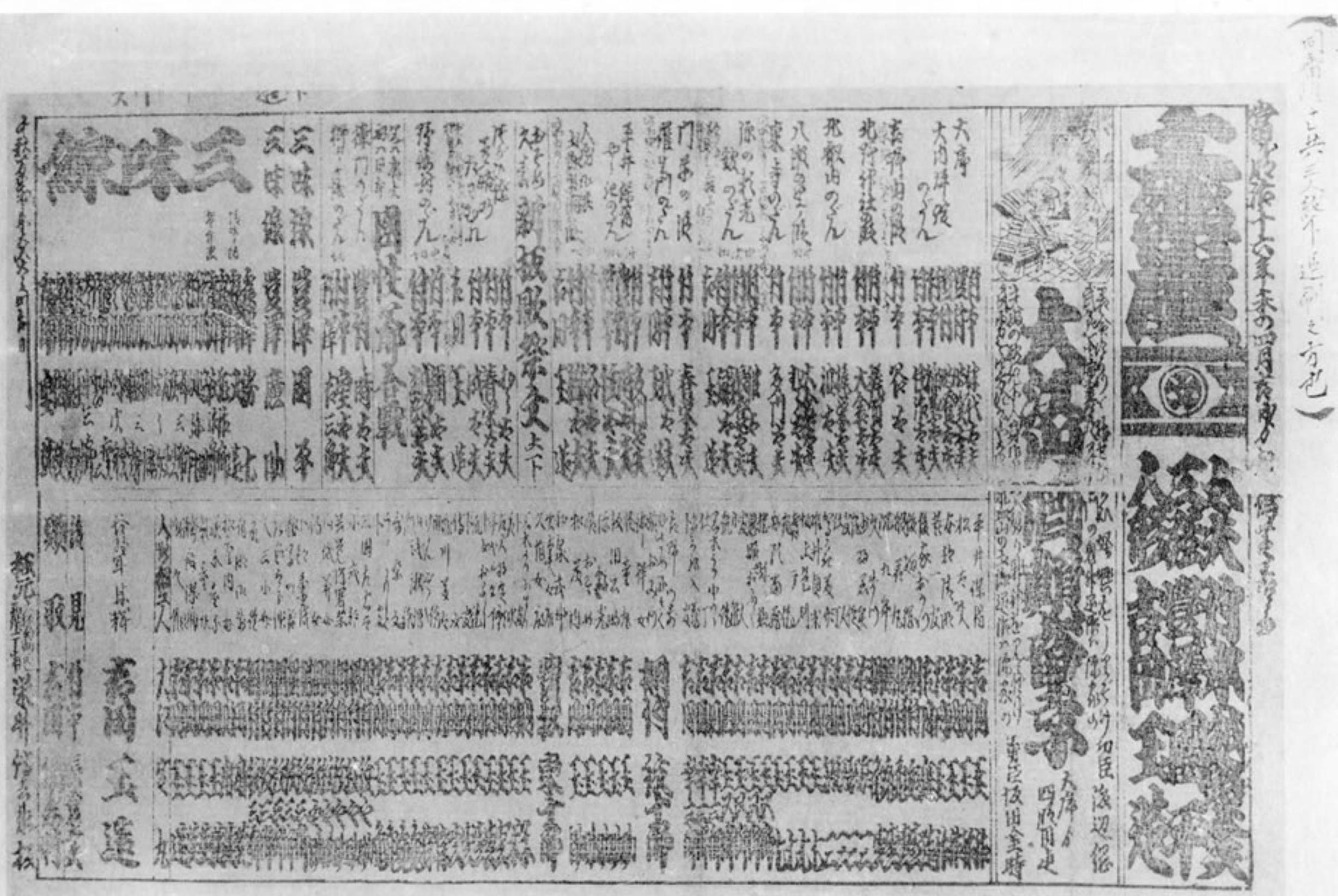
六代野澤吉彌（二代野澤吉三郎トナルナリ）出勤

野澤兵内改メ野澤吉三郎トナルナリ

明治元年三月二日（昭和十年ヨリ六十八年前）

稻荷社内東門芝居、此時

一六三歳不遇の之方也



六代 野澤吉彌（二代吉三郎時代）出勤
明治十六年四月十一日初日（昭和十年ヨリ五十三年前）松島文樂座、此興行
中發病退座シ其後終ニ起タズ、因ニ此時三業打揃テ櫓下トナル



五代 野澤吉兵衛略歴 (通稱江戸堀)

天保十二年讃岐國ニ生レ、幼少ヨリ竹本泉太夫ノ養子トナル。本名、鈴木繁造。嘉永ノ頃ヨリ三代目野澤吉兵衛門人トナリ、野澤吉次郎ト呼ブ。文久二年七月廿七日、師逝去ノ後ハ、四代野澤吉兵衛（野澤吉彌時代）預リ門人トナル。慶應元年早クモ因講中老ニ拔擢セラレ、師ノ前名ヲ讓リ受ケ、吉次郎改メ五代野澤吉彌トナル。翌二年、故アリテ師命ニフレ初代野澤錦糸ト名乗リシガ、暫時ニシテ許サレ再ビ吉彌ニ復ス。明治十四年十二月廿日、師四代野澤吉兵衛逝去ノ後、同十六年十一月、師ノ名跡ヲ讓リ受ケ、吉彌改メ五代野澤吉兵衛ヲ相續ス。翌十七年七月、始メテ松島文樂座ニ二代竹本越路太夫相三絃トシテ入座、桂川連理栅帶屋ノ段ヲ勤ム。（但シ此時番付ニ名載ラザリキ。）同年九月廿四日、御靈文樂座新築移轉興行ノ時、五代吉兵衛襲名披露ナシ、正式ニ越路太夫相三絃トナル。明治廿七年十二月、東京歌舞伎座興行ノ後、故有リテ退座休業。後病ヲ得テ靜養セシ中四十年九月、門人七代野澤吉彌ニ六代野澤吉兵衛ヲ相續セシメ、自ラ野澤繁造ト改ム。明治四十四年二月廿二日東京市芝區烏森町寓居ニ於テ永眠ス。

法名 大雲院釋是相居士 行年七十一歳。

菩提寺

東京市中野區東中野

源通寺。

分骨

大阪市天王寺區六萬体町

吉祥寺。

家ノ段駒太夫役場ナ弾ク

太夫

竹本

山

小出ノ初君

北島ハ名君

八鍔守譲

太席、
十股目

小条鎧ノ張

船鉢、猿太夫

南服ちん

船鉢、猿太夫

东由門都殿

舟卒、秀太夫

森蘭の張

舟卒、秀太夫

私ノ張

舟卒、久太夫

後誠の張

舟卒、久太夫

後誠の張

舟卒、久太夫

國名五人伐

舟卒、久太夫

大川ノどん

舟卒、久太夫

太重内ぶん

舟卒、久太夫

三國無双奴譜状

舟卒、久太夫

船鉢、猿太夫

舟卒、秀太夫

船鉢、猿太夫

舟卒、秀太夫

船鉢、猿太夫

舟卒、秀太夫

船鉢、猿太夫

舟卒、秀太夫

三味線

家ノ段駒太夫役場ナ弾ク

五代 野澤吉兵衛（初代野澤錦糸時代）出勤

慶應二年四月（昭和十年ヨリ七十年前）東區座摩神社境内芝居、此時佐々木住



參添御稿

太、大

高橋本鋪金

大席大内渡

斐村巴保太夫

良城門若

高橋本鋪金

系店の渡

齋舟三保太夫

源助、仁云

高橋本鋪金

民狩の渡

齋舟三保太夫

源助、仁云

高橋本鋪金

明石島別渡

齋舟三保太夫

源助、仁云

高橋本鋪金

大猿揚や渡

齋舟三保太夫

源助、仁云

高橋本鋪金

小深川の渡

齋舟三保太夫

源助、仁云

高橋本鋪金

摩耶の渡

齋舟三保太夫

源助、仁云

高橋本鋪金

淡松の渡

齋舟三保太夫

源助、仁云

高橋本鋪金

鴻岡の渡

齋舟三保太夫

源助、仁云

高橋本鋪金

十郎の渡

齋舟三保太夫

源助、仁云

高橋本鋪金

道の渡

齋舟三保太夫

源助、仁云

高橋本鋪金

野澤吉兵衛

齋舟三保太夫

源助、仁云

高橋本鋪金

鶴澤の渡

齋舟三保太夫

源助、仁云

高橋本鋪金

五代

野澤吉兵衛

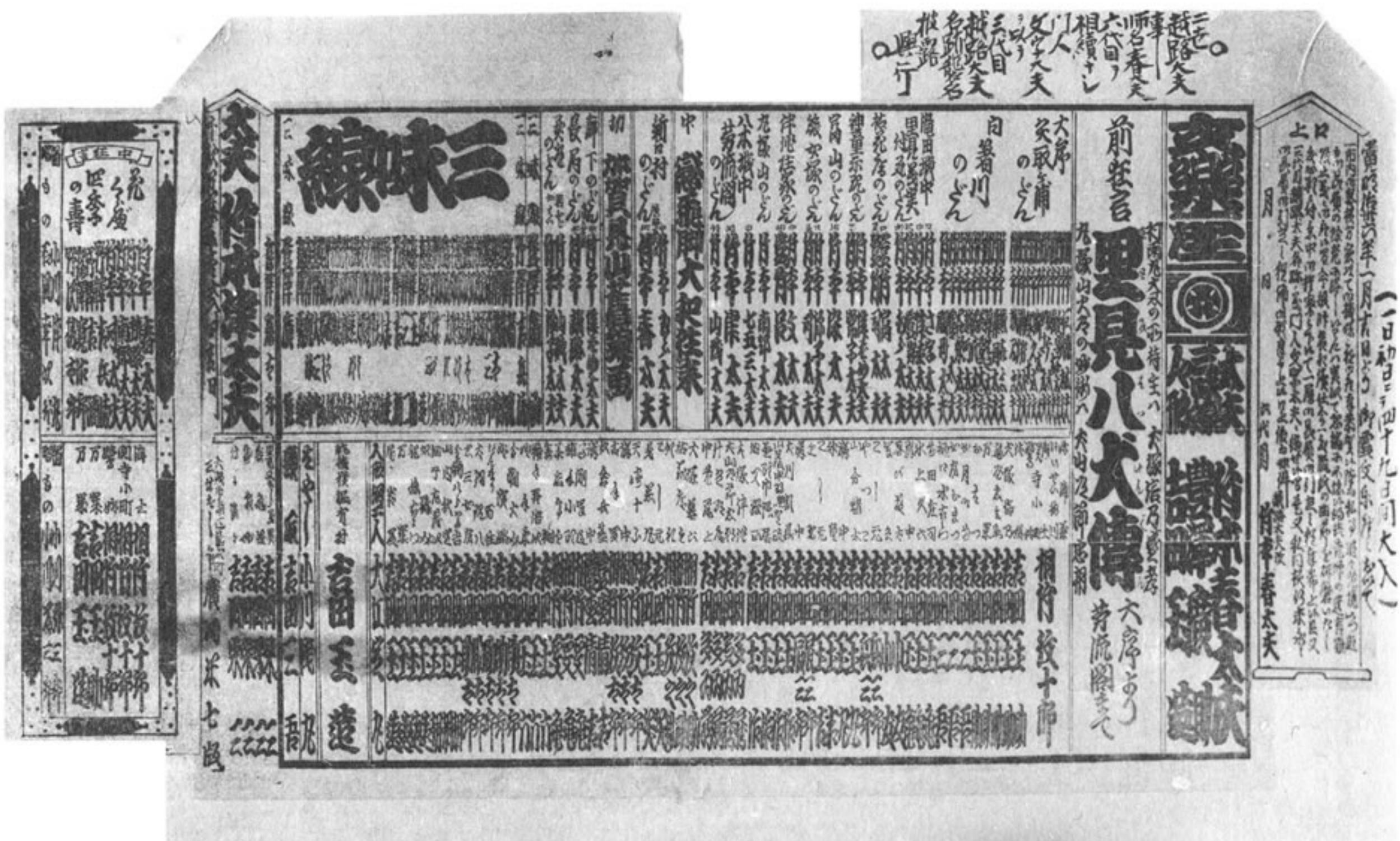
（五代野澤吉彌時代）出勤

作ハ二代目ナリ。

明治二年五月（昭和十年ヨリ六十七年前）平野町御靈社内芝居、因ニ野澤吉

明治卅六年一月一日初日（昭和十年ヨリ廿三年前）御靈社内文樂座、此時二代竹本越路太夫事師名ヲ相續シ六代竹本春太夫ト改名ス、右披露狂言花競四季の壽ヲ上演。三味線シテ五代吉兵衛、二枚目七代吉彌、（後ノ六代吉兵衛）三代目二代鶴澤寛治郎、四枚目野澤勝太郎、（後ノ四代野澤勝市）ナリ

五代野澤吉兵衛 出勤



二月十一日初日三月六日近在六回奉り

當内船旅せし某十日より南靈文樂座を以て

不津大様
興行再發休座
南部大夫
ク額棚
切近勤ル
川價キ

普天拂
安太
大序
御招
六条城
問答のえ

大序
安太
大序
御招
六条城
問答のえ

前繪本

天王山の盛軍天王山の盛軍の馬印ハシムラタマシマウス

本能寺の成軍本能寺の成軍の馬印ハシムラタマシマウス

大勝

又の

相將

役十番

厄矢

大勝

三味線

太夫 演奏 太夫

千秋万葉 来方 大久保吉日

五代野澤吉兵衛 出勤

明治廿六年十一月十一日初日(昭和十年ヨリ廿三年前)御靈社内文樂座、此時尼ヶ崎段攝津大様役場ヲ彈ク、因ニ大様興行中病氣再發ニテ休座シ三代竹本南部大夫代役ス、尙吉兵衛事翌廿七年一月ヨリ故有ツテ文樂座ヲ退座ス、當興行コソ五代野澤吉兵衛最終ノ舞臺ナリ。

六代 野澤吉兵衛略歴 (通稱江戸堀)

明治元年九月六日大阪北堀江ニ生ル。本名 松井福松。幼師ハ豊澤兵吉。明治十年一月、二代野澤吉三郎(後ノ六代野澤吉彌)門人トナリテ因ニ加入シ、野澤兵三ト呼ブ。同年四月大江橋席ニ見習トシテ入座ス。明治十四年九月廿三日興行ヨリ松島文樂座ニ出勤。明治十七年二月、稻荷彦六座へ轉籍出勤、此時兵三改メ三代野澤吉三郎トナル。師六代野澤吉彌、明治十九年十二月四日逝去ノ後ハ、五代野澤吉兵衛預リ門人トナル。明治廿四年一月廿八日、稻荷彦六座繪本太功記此興行ニテ三代野澤吉三郎改メ七代野澤吉彌トナリ、先師ノ名跡ヲ繼承ス。明治廿八年七月ノ頃ヨリ地方巡業ニ出デ東京滯留中。五代吉兵衛ノ説諭ニテ約五年振ニテ歸阪、明治廿三年九月五日御靈文樂座ニ返咲ス。翌廿四年一月一日同座菅原傳授手習鑑、此時ヨリ七代竹本文字太夫(後ノ三代竹本越路太夫)相三絃トナリ、大正十一年二月興行越路太夫最後ノ舞臺迄行ヲ俱ニス。

大正十三年五月興行ヨリ三代竹本津太夫相三絃トナリ、文樂座三味線櫓下ノ位置ニナホリシニ同月末日突然發病シ、大正十三年六月四日逝去ス。



法名

釋

隆

心

行年五十
歳。

天王寺區六萬体町

吉祥寺ニ葬ル。

七

種質前年

当時太正の末へ四の後年

開幕入久樂出發

大天音頭

前音頭

大内

音頭

多田

音頭

柳家

音頭

六代 野澤吉兵衛（前名七代吉彌） 出勤

因二鶴澤寛治郎八二代目（現在）、野澤吉三郎八四代目（現在ノ七代野澤吉兵衛）、野澤吉彌八八代目（現在）、

初代 **野澤吉兵衛** （前名二代野澤吉五郎）

本名 **丹波屋吉兵衛**

法名 **住本院良應日用居士** （行年不明）

菩堤寺 京都市新町頭鞍馬口下ル 妙覺寺内 成就院

二代 **野澤吉兵衛** （前名初代野澤吉彌）

本名 **木村忠兵衛**

法名 **妙中全淨禪定門** （行年不明）

嘉永六年六月廿九日 美濃國關町 柄屋岩九良方ニ
テ逝去ス

菩堤寺 京都市千本通仁和寺街道西入北側 長德院

因ニ美濃國關町一本木 東光寺 備付ノ過去帳ニ

法名 妙中全淨禪定門 靈位

嘉永六年六月廿九日 京都住人野澤吉兵衛事

柄屋岩九良方ニテ病死ス

以上ノ如ク記シ現存ス

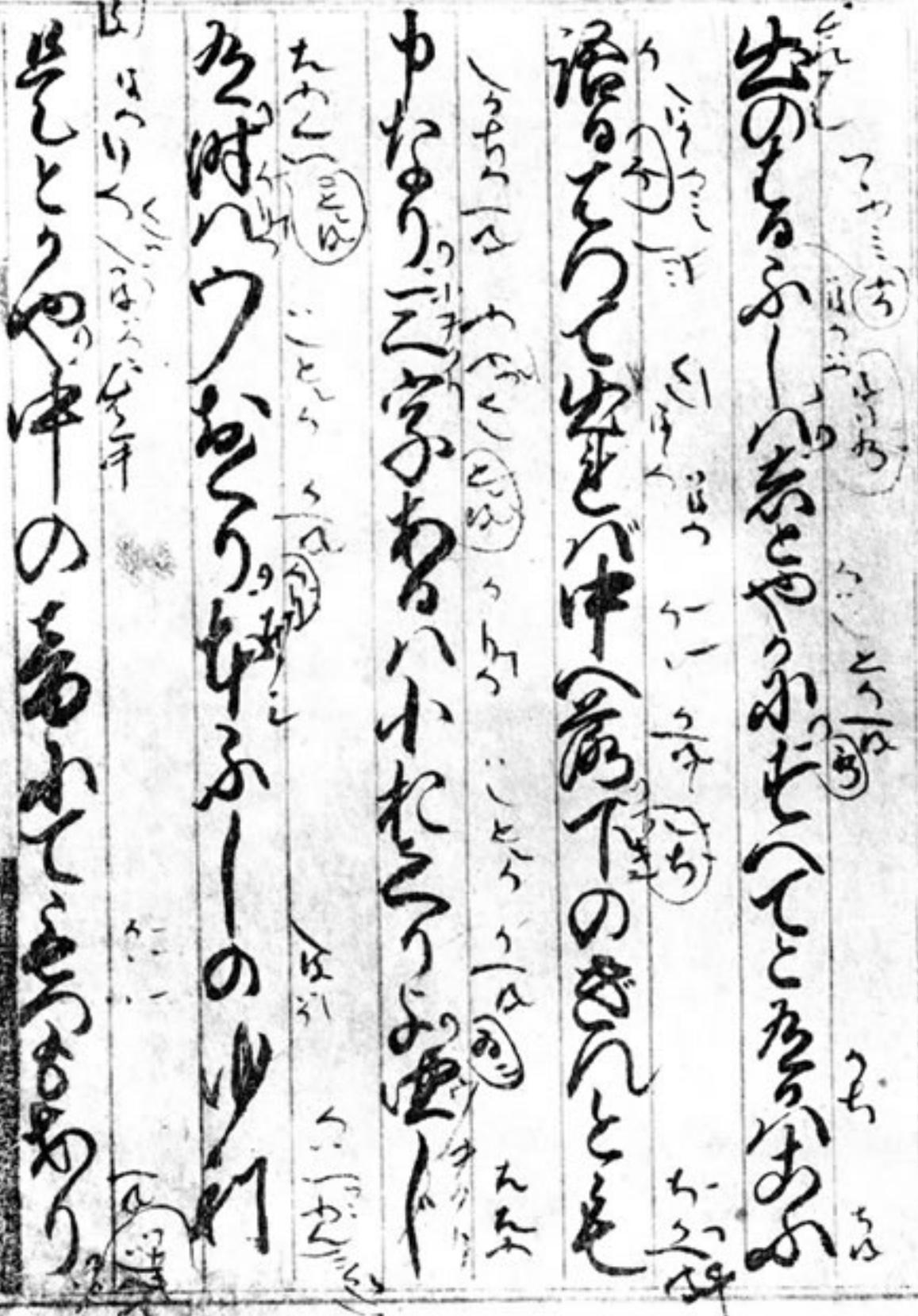
二代 野澤吉兵衛略歴

文政四年大阪ニテ生ル。本名佐田屋市治郎。（父ハ鶴澤勝鳳ト呼ビ三絃彈ナリシガ業ヲ更ヘ初代竹本越路太夫トナル。）鶴澤文三（始メ鶴澤忠次郎、文政十二年正月鶴澤文三郎ト改メ、天保元年二月鶴澤文三ト改名ス。嘉永二年暫時鶴澤林藏ト名乗リシガ、再ビ文三ニ戻リ、江戸ニ下リテ彼地ニ没ス。）門人トナリ、二代鶴澤市次郎ト呼ビ天保五年春陽ノ頃ヨリ御靈境内座本鶴澤元三郎芝居ニ出座ス。天保十一年八月一日、稻荷境内東芝居ニテ父ノ名跡ヲ繼ギ鶴澤勝鳳ト改名ス。天保十四年十二月、道頓堀若太夫芝居ニテ國性爺三ノ切、五代竹本染太夫役場ノ大役ヲ彈キ、二代鶴澤勝鳳改メ三代野澤吉兵衛ヲ相續ス。弘化四年父竹本越路太夫、五代竹本春太夫一座ニ加ハリ江戸ニ行ク。弘化末年父彼地ニテ逝去ノ後モ、春太夫ト共ニ江戸ニ止リ諸座ニ出勤。安政元年春太夫同伴歸阪シ、翌二年正月稻荷境内東小屋ニ出勤ス。翌三年末ヨリ門人四代野澤吉彌ニ春太夫相三絃ヲ譲リ、自身若キ太夫ノ養成ヲ志シ、素淨瑠璃一座ヲ組織シ、安政五年ノ春ヨリ中國四國九州地方迄巡業ス。翌六年正月ヨリ大阪ニテモ右一座ニテ諸所興行セシガ、萬延元年亡父竹本越路太夫ノ十五回忌法要ヲ兼ネ江戸巡業ヲ思ヒ立チ、再ビ江戸ヘ下リ永滯在トナル中、文久二年七月廿七日彼地ニテ逝去セラル。

法名 宗譽淨喜禪定門 行年四十二歳。

東京市深川區靈岸町 雲光院ニ葬ル。

因ニ大正大震災後現在ノ場所ニ移葬シ父越路太夫墓ト並ビ立テリ。



つたの事と種毛をうつすと

おやこむちの波ヒロイナリ

もぐるの波かくさく津か

くわくと浮舟がくわく

あひだれあひだれ

君の三浦の海

おのれの海

の波かくさく

同ドヒムの波かくさく

の波かくさく

11 11 11 11 11

四六十五日

大和正月

前と後がめぐら風が違う

春風と秋風の風がゆき

その流れじよ風の流とせりあ

ウタハシトコロ

ゆふとしむくはくすの草

うつむくはくすの草

かのよきのそめされ

も絶えぬまづ

おのれのよきの

伏坐のよきの

大間之舞



像肖ノ裝變衛兵吉代四

四代 野澤吉兵衛

(通稱一丁目)

妙法園林院聲說日導信士 本名 鈴木東三郎

明治十四年十二月三十日逝去 行年五十二歲

菩提所 大阪市東區中寺町高津表門筋北入 圓妙寺

分骨 京都市東山通五條坂東入 通妙寺

一代 野澤吉平略歴

弘化元年ノ頃ヨリ三代野澤吉兵衛門人ニテ野澤嘉市ト呼ブ、始終師ト共ニ地方巡業ニ廻ラレシ爲メ大阪芝居出勤ハ少シ、弘化四年江戸巡業ノ頃ヨリ師ノ前名ヲ繼ギ野澤勝鳳トナル。明治四年野澤勝鳳改メ二代野澤吉平ト改名シ、其後ハ舞臺ヲ引退、明治十年前後迄生存セラレシガ、逝去ノ年月、戒名、本名出生地等遺憾ナガラ一切詳カナラズ。因ニ初代野澤吉平ハ初代野澤吉兵衛文化三年ノ頃、所司代官ノ布告ニテ兵衛名ヲ禁ゼラレシ爲、一時名乗ラレシヨリ起リシ名ナリ。

一代 野澤吉作略歴

本名 長尾安次郎。安政四年四代野澤吉兵衛（四代野澤吉彌時代）門人トナリ、野澤安次郎ト呼ブ、翌五年七月稻荷社内東小家、櫛下竹本長登太夫、里見八犬傳ノ興行ヨリ番付ニ名ヲ載セ出座ス。明治三年正月、稻荷東門芝居菅原傳授手習鑑、此時師ノ前名ヲ讓受ケ安次郎改メ二代野澤吉作トナル。明治十三年三月、松島文樂座契情小倉色紙、此興行ヨリ發病シ引退ス。但シ同年十一月興行迄番付ニ名載リタリ、明治十四年六月十九日逝去ス。

法名 感應院瑞譽吉祥信士 行年四十歳未滿。

菩提寺 天王寺區下寺町 西念寺。

二代 野澤喜鳳略歴

天保十年、大阪松屋町末吉橋南入ニ生ル。生家ハ三味線商ナリ、本名 尾上喜兵衛。安政初年ノ頃、三代野澤吉兵衛門人トナリ、野澤頓平ト呼ブ。安政四年正月、天滿新門席ニテ頓平改メ二代野澤太八トナル。文久三年ノ頃暫時野澤吉三郎ヲ名乗リシガ、再ビ野澤太八トナル。明治四年太八改メ野澤勝鳳トナル。（因ニ野澤勝鳳ハ此人ニテ二代ナリ）明治十七年勝鳳改メ三代野澤喜鳳ト改名ス。明治十五年十二月二日松屋町自宅ニ於テ永眠ス。

法名 釋正順 行年五十四歳。

大阪市東區谷町五丁目 信樂寺ニ葬ル。

色子原廣吉太郎門口

北四郎大序

版

天勝鳳本門

太席背舉跡笑

手渡元元役者

弓矢射飛力石ノ元

猪取切猿の腰

轄救急急助筋

助筋がん中助筋

切名筆よし丈平

投監住處波

三味線野澤清四

太猿太夫

三味線野澤喜鳳其太夫

義法二良

北四郎大序
天勝鳳本門
太席背舉跡笑
手渡元元役者
弓矢射飛力石ノ元
猪取切猿の腰
轄救急急助筋
助筋がん中助筋
切名筆よし丈平
投監住處波
三味線野澤清四
太猿太夫
三味線野澤喜鳳其太夫
義法二良

升物引手大口

二代 野澤吉平（野澤勝鳳時代）出勤

慶應元年十一月（昭和十年ヨリ七十年前）天滿戎門席ニテ竹本其太夫役場吃又平ヲ彈クナリ、因ニ野澤太八ハ後ニ野澤勝鳳トナリ三代野澤喜鳳ヲ相續ス、是現今二代鶴澤寛治郎ノ先師ニシテ養父ナリ、

皆以七月十九日爲御内家日

於此日御内家御内家御内家御内家

御内家御内家御内家御内家



操羅

大

續十五段

靈王の威徳

打

大

續十五段

白箸

川之段

打

大

續十五段

卓を鉢の段

打

大

續十五段

清田中さん

打

大

續十五段

はせじだし

打

大

續十五段

彦子示段の段

打

大

續十五段

富山の段

打

大

續十五段

竹塚も段

打

大

續十五段

休地室井の段

打

大

續十五段

園城山の段

打

大

續十五段

松井の段

打

大

續十五段

芳流瀬の段

打

大

續十五段

古那屋の段

打

大

續十五段

庚申山の段

打

大

續十五段

ゆきやの段

打

大

續十五段

老成屋の段

打

大

續十五段

三

未

中

初

千葉万歳樂太父

音羽

人形

取

手

二代 野澤吉作（安次郎時代）出勤

安政五年七月（昭和十年ヨリ七十八年前）稻荷社内東小家、此時野澤安次郎二

テ文樂軒へ始メ出勤、因ニ野澤吉彌ハ後ノ四代野澤吉兵衛、鶴澤七兵衛ハ

六代野澤吉彌ノ幼師、野澤勝市ハ後ノ六代野澤喜八郎、

八

稻荷東芝居

竹本越路太夫

牛年吉日のあはれあはれ
海瑞樓 案



海瑞樓

太夫

喜

喜

喜

大切

梅八堂
松川軒

海瑞樓

太夫

喜

喜

喜

大切

大内つ
だん

加藤
ほし

佐藤
さと

車柄
くる

近藤
ちか

時平坂良
ときひら

醜承のん
くじゆ

天輝山ノ段
てんきやま

寺多やけ隣
てら

内蔵のたん
うちざな

小野柄のん
おの

竹本

三味線

人形

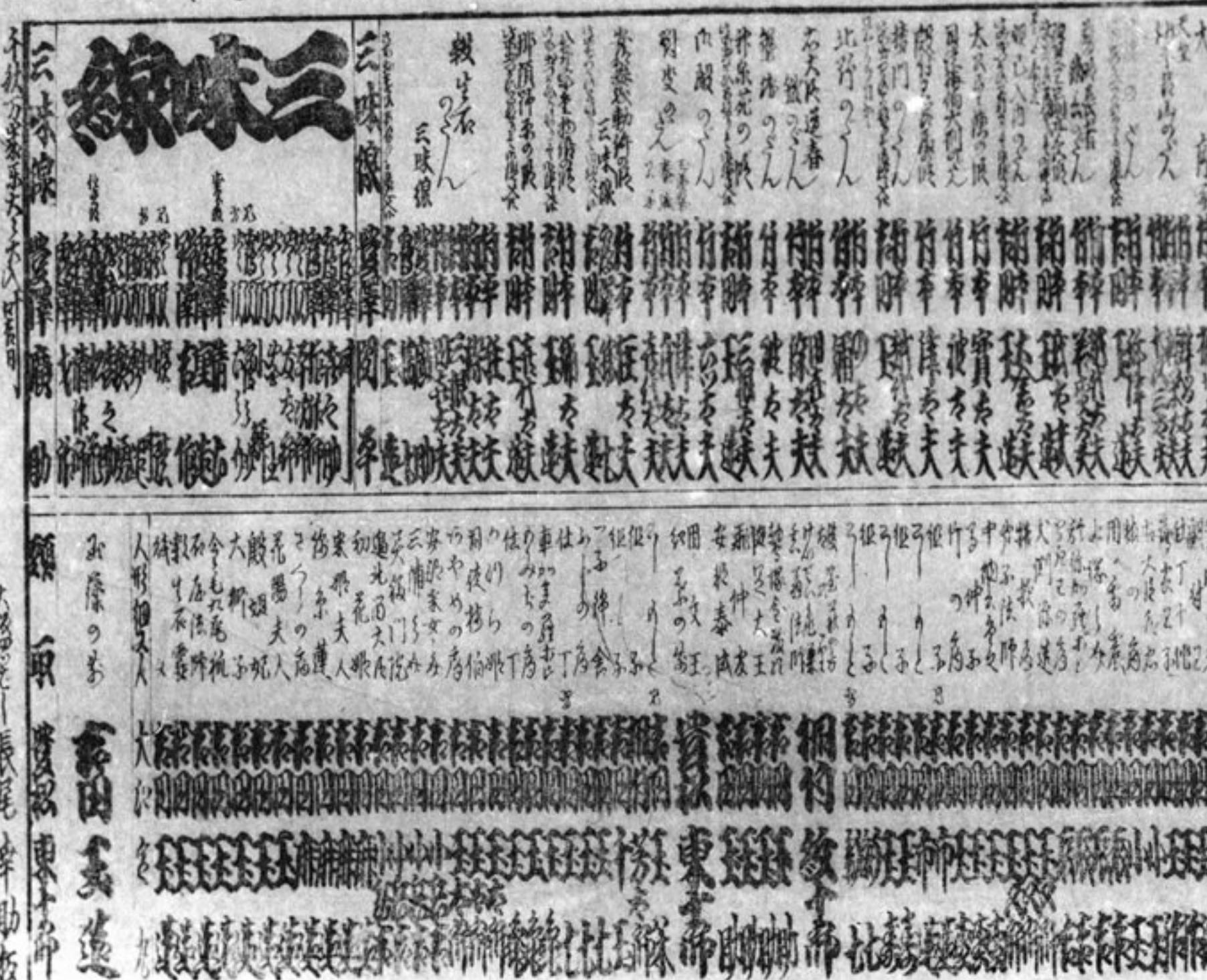
太夫

之のひ
此時而此
書印
此時而此
印

二代 野澤吉作 出勤

明治三年正月十一日（昭和十年ヨリ六十六年前）稻荷東芝居、此時野澤安次郎
事二代野澤吉作ト改ム、因ニ野澤吉兵衛トアルハ四代目、尙番付ノ右端ノ新
春以下云々ノ文字ハ竹本攝津大様（二代目竹本越路太夫時代）ノ自筆、

竹本津太夫



二代野澤吉作出勤

エテ退座シ終ニ起タズ、

明治十三年三月(昭和十年ヨリ五十六年前)松島文樂座、此興行ヲ限リニ病ヲ



太宰

八代目

前説言

太宰八代目

大序

柳齊先生

傳授の心

篠井詮民

道門の心

東先

時松玉九郎

依田印

切味中

慈

天香山人

や勝儀

道行之院

伊東河第

云來齋

三昧線

密願願

春秋方卷

豊昇屏二八平

三代 野澤喜鳳（二代野澤勝鳳時代）出勤

明治十一年二月（昭和十年ヨリ五十八年前）稻荷北門小家、此時佐田村段島太夫役場ヲ彈ク、因ニ吉彌ハ五代吉兵衛、吉三郎ハ六代吉彌、兵三ハ六代吉兵衛トナルナリ。



三代 野澤吉平略歴 (通稱道修町)

天保十四年大阪市ニ生ル。本名 山中収助。（養父ハ鶴澤収助ト云ヒ三絃彈ナリ）安政五年ノ頃、三代野澤吉兵衛門人トナリ野澤米造ト呼ブ。文久三年ノ頃、米造改メ六代野澤吉之助トナル。明治十七年吉之助改メ三代野澤吉平ヲ襲名ス。明治廿九年四月十九日、東區道修町三丁目自宅ニテ永眠ス。

法名 釋正圓 行年六十四歳

菩提所

高

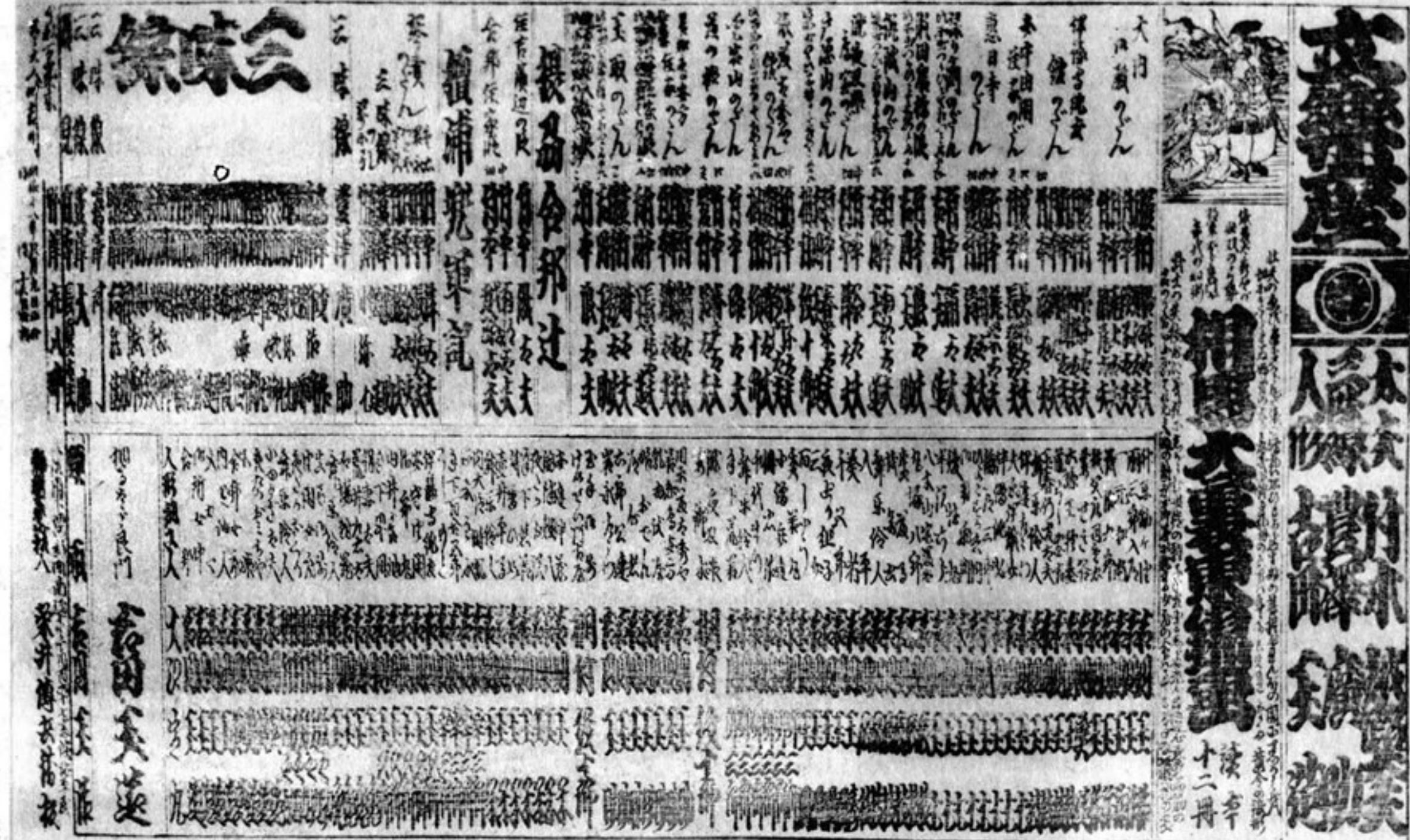
野

山

當年明治十八年正月二十九日開演文樂座行

(十二日初日正四日尾行)

當年明治十八年正月二十九日開演文樂座行



三代 野澤吉平（前名六代野澤吉之助）出勤

明治十八年五月廿二日初日（昭和十年ヨリ五十一年前）平野町御靈社内文樂座此興行限りニテ退座ス、中軸〇印ハ野澤吉平、因ニ箱外野澤喜八郎ハ六代目ナリ、

四月十七日御届
五之六上旬出版

明治十一年五月改

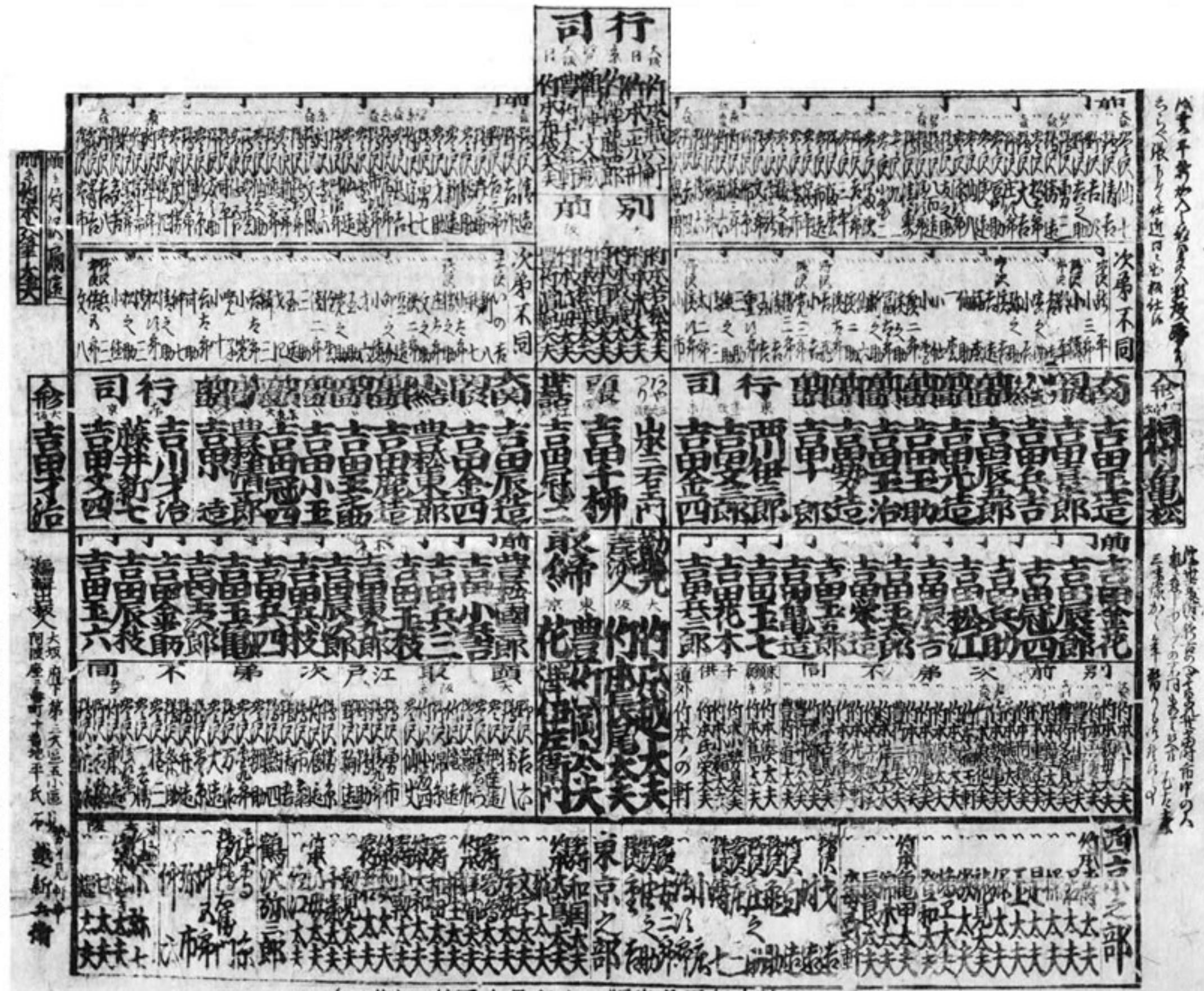
三府争地因組観見之芳

西	中	東
豊後太夫	見後	豊後太夫
鶴澤清六	鶴澤清六	鶴澤清六
司行	司行	司行
大廣助	仲清助	大廣助
鶴澤喜平	鶴澤喜平	鶴澤喜平
左	左	左
豊後太夫	豊後太夫	豊後太夫
鶴澤清六	鶴澤清六	鶴澤清六
司行	司行	司行
大廣助	仲清助	大廣助
鶴澤喜平	鶴澤喜平	鶴澤喜平

(一其) 付番立見氣人 版出月五年十治明

明治十年五月出版(昭和十年ヨリ五十九年前)ノ人氣見立ナリ、三味線ノ部上段向ツテ右側、野澤吉兵衛ハ四代目、野澤勝市ハ二代目ニテ後ノ六代野澤喜八郎、野澤吉彌ハ五代目ニテ後ノ五代野澤吉兵衛、左側野澤吉平ハ二代目ニテ前名初代野澤勝鳳、野澤勝鳳ハ二代目ニシテ後ノ三代野澤喜鳳、鶴澤寛治ハ五代目、

三味線ノ部上段向ツテ右侧、野澤吉之助ハ後ノ三代野澤吉平、鶴澤清次郎ハ現今東京鶴澤勝鳳、野澤吉次郎ハ二代目ニテ廣島市ニテ没ス、野澤福松ハ現今神戸ノ初代野澤喜左衛門、左側上段野澤吉作ハ二代目ニテ前名安次郎、野澤吉三郎ハ二代目ニテ後ノ六代目野澤吉彌、二段目右侧野澤頓平ハ二代目ニテ現今東京在住、鶴澤寛三郎ハ後ニ鶴澤仲助ト改メ先年東京ニテ没ス、野澤兵三ハ後ノ六代野澤吉兵衛、



(二其) 付番立見氣人 版出月五年十治明

明治十七年

新世第藏

總管見

三味線

鶴澤清

七

見後總

竹木長閑夫

吉光

太夫古光

中光

吉光

東京

西京刊請
才志年外年年
權子要年年年

右丁十七年五月晉

協議大席頒請決事
左因迎親害二年家
之以大席外可深處
靈槐社祭八月晉

古光

同月

野澤喜鳳ハ三代目(前名二代目野澤勝鳳、)野澤吉兵衛ハ五代目(前名五代野澤吉彌、)野澤吉平ハ三代目(前名六代野澤吉之助、)野澤吉彌ハ六代目(前名二代吉三郎、)野澤喜八郎ハ六代目(前名一代野澤勝市、)尙同人席順ハ野澤喜鳳ノ次席ナリシガ永年中絶ノ故ニ依リ因社ノ裁キニテ斯ノ如ク下位トナルナリ、

昭和十年九月二十日印刷

(非賣品)

昭和十年九月二十五日發行

大阪市北區曾根崎新地二丁目四八番地

鶴澤寛治郎事

發行人兼
大 盛 千 助

印刷人
高 橋 又 三 郎

大阪市南區瓦屋町一番丁二十一番地

印刷所
共榮堂印刷所

電話南⁷⁵二五五一
番